

グループハウスひるぜん 地域連携推進会議議事録

日時：令和8年2月14日（土） 14：00～16：00

会場：ワークスひるぜん 会議室

（見学：共同生活援助 たいよう、のぞみ、スマイル、ワンケイ、さくら、りん）

出席者：M（地域の関係者）、I（家族）、A（利用者）

光本康祐（グループハウスひるぜん管理者）

横浜秀之（法人理事）

協議内容：

1. 事業所概要について

- ・国道に隣接している住居もあるが、安全性についてはどのように対応をされているか。

→道路交通については、日々の訪問時に声かけを行うことに加え、利用者の状況から必要な事柄を伝えたり、学習会、話し合いを取り入れている。

合わせて、他の事柄についても必要な情報提供、学習会を行っている。

今年度は、スマートフォンの使い方について力を入れ、歩きスマホやながらスマホについて、課金について、依存について、情報提供を行った。

2. 施設見学について

- ・各住居老朽化が進んでいることが確認できた。様々な困難性があるとは思いますが、対応についてはどう考えているか。

→より新しい建物を事業化し、引っ越しができればよいが、制度的な兼ね合いもあり困難が伴う状況である。この間老朽化した住居については、退所を機に、また今後のニーズを見据えて整理しつつある状況である。今後も利用者の状況を踏まえながらの住居整理をしつつ、可能な範囲の修繕等は行っていきたい。

- ・それぞれ自分なりの時間を過ごされていることが確認できた。障害のある人がこのような生活をされていることを見ることができて良かった。

3. 事業所の取り組み、課題について

- ・私は、今までの住居から昨年に引っ越し、より一人暮らしに近い環境になった。食事については世話人さん、支援員さんが準備してくれ、心配なく生活している。一人暮らしに向けて、炊飯等、自分でできることをするようになった。
 - ・地域との関わりが課題とあったが、地域行事だけではなく。物づくりを一緒に行う等、関われることはあるのではないかと考えた。私も繁忙期でなければ、味噌づくりなど、講師として一緒に関わることができる。
- 地元の地区社協主催行事に参加させてもらうなど、できることはしているが限定的でコロナ禍以後減っているのが現状。そのような申し出をいただけるのはとてもありがたいので、また具体的に相談させていただきたい。